

アゼルバイジャンへの入国者数(2023年)

コロナ関連の規制も解け、人々の往来も元の状態に戻ってきています。アゼルバイジャン政府は観光誘致戦略の展開を続けており、更なる観光客の増加を狙っています。

国家国境庁によると、昨年 2023 年は、世界 187 カ国からおよそ 208 万の外国人(および無国籍者)がアゼルバイジャンを訪れました。前年の 160 万人から 30%ほど増加しており、コロナ禍以前に記録された入国者数ピーク(2019 年、317 万人)の 3 分の 2 弱にまで戻ったこととなります(図1参照)。また、国数も昨年の 178 カ国から 187 カ国に増加しています。

入国者数の上位3カ国は、順にロシア(62 万人)、トルコ(37 万)、イラン(16 万人)となり、次いでインド(11 万)で対前年比 5 万人増加しています(直近 5 年の入国者数上位国については表1をご参照下さい)。

地域別では、CIS 諸国と EU 諸国からの入国者数はそれぞれ 82 万(44.6%増)と 10 万人(41.6%増)と増加した一方、湾岸諸国からは 35 万人(2%減)となっております。また、東アジアに目を転ずると、日中韓それぞれ 2 倍、6.6 倍、3.3 倍増と増加傾向にあるものの、全体に対する割合はわずかです(図2参照)。当地の観光関係者筋によると、増加要因としてバクーと EU 圏の都市を結ぶ便が増加したことや、中国のゼロコロナ政策の解除、アゼルバイジャンの観光プロモーション戦略が奏功したことなどが考えられるとのこと。また、湾岸諸国の入国者減少の理由としては、地域市場が飽和気味で、アゼルバイジャンに魅力を感じるリピーターが減っていること、更にサウジアラビアに関しては技術的な問題で夏期にバクー便の多くがキャンセルされたことに関係していると考えられるようです。

アゼルバイジャンで行われる国際会議や国際大会は今年も数多くあります。COP29(11 月 11 日～24 日)の開催国となったのは記憶に新しいですが、バクー・エネルギーフォーラム(6 月 5 日～6 日)、スポーツでは柔道のグランドスラム(2 月 16 日～18 日)、トランポリンのワールドカップ(2 月 23 日～25 日)、体操のワールドカップ(3 月 7 日～10 日)、新体操のワールドカップ(4 月 19 日～21 日)、射撃のワールドカップ(5 月 1 日～12 日)、そして F1 グランプリ(9 月 13 日～15 日)などが開催予定です。それに伴い海外からの入国者も大幅に増える見込みです(当地のイベント情報については、表2や前号の情報も併せて参照下さい)。

日本からの渡航者もピーク時の 6 千人(2019)に近づくよう、当館としてもアゼルバイジャンの PR、当国関連ビジネスの促進に努めて参ります。

(以上)

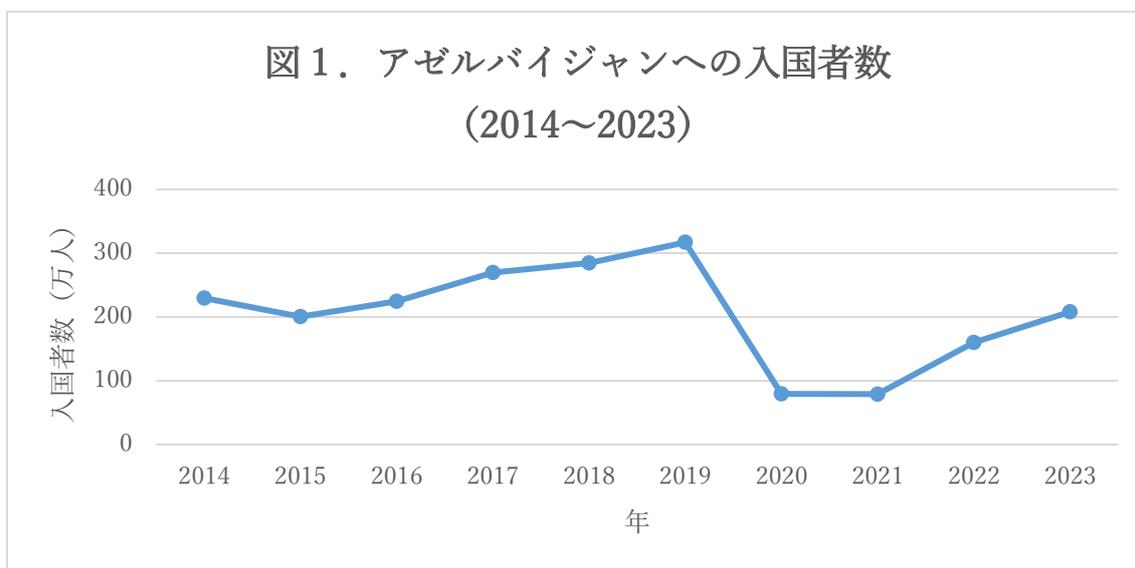


表 1. 直近 5 年の入国者数上位国

| | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|-----|---------|--------|--------|---------|--------|
| 1 位 | ロシア | ロシア | ロシア | ロシア | ロシア |
| 2 位 | ジョージア | ジョージア | トルコ | トルコ | トルコ |
| 3 位 | トルコ | トルコ | イラン | イラン | イラン |
| 4 位 | イラン | イラン | ジョージア | サウジアラビア | インド |
| 5 位 | サウジアラビア | ウクライナ | ウクライナ | ジョージア | ジョージア |

図2. アゼルバイジャンへの地域別入国者数

(単位：万人、概算)

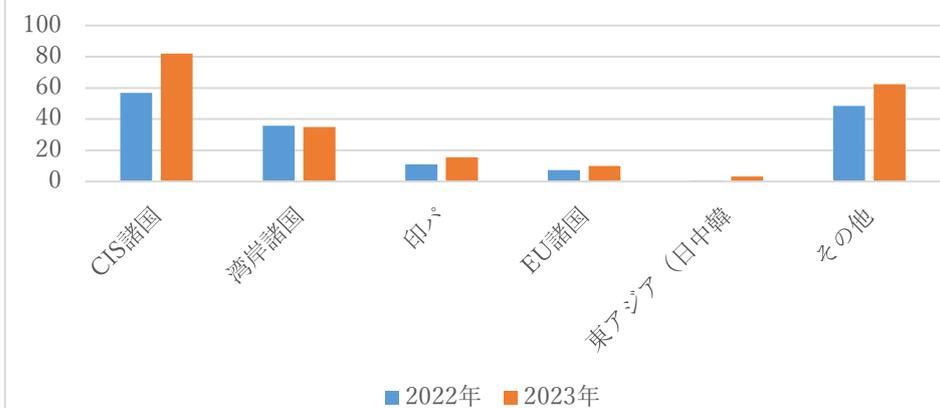


表2. 今後の主なスケジュール (2月～11月)

| 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|---|------------------|-----------------------|------------------|-------------------------------|
| 柔道グランドスラム (16日～18日) トランポリンW杯 (23日～25日) | 体操W杯 (7日～10日) | 新体操W杯 (19日～21日) | 射撃W杯 (1日～12日) | バクー・エネル ギーフォーラム (5日～6日) |
| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
| — | — | F1 グランプリ (13日～15日) | — | COP29 (11日～24日) |